

2023年3月期 第2四半期 決算説明会

2022年11月10日

富士フイルム ホールディングス株式会社

NEVER
STOP

FUJIFILM
Value from Innovation

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日のアジェンダ – 2023年3月期 上期 決算説明会 –

2023年3月期 上期 (2022年4月～9月)

1 | 決算ハイライト及びトピックス

富士フイルムホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO **後藤禎一**

2 | 連結業績及び事業概況

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

2023年3月期

3 | 通期連結業績予想

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO **樋口昌之**

01 2023年3月期 第2四半期
決算ハイライト及びトピックス

2023年3月期 上期 決算ハイライト

2023年3月期 上期 連結業績

	売上高	営業利益	当社株主帰属 四半期純利益
	1兆3,499億円	1,208億円	952億円
■ 上期	対前年 (+12.0%)	過去最高 (+12.0%)	(-1.1%)

- ▶ 売上高はメディカルシステム、電子材料、イメージングの伸長や為替影響などにより、増収。
- ▶ 営業利益は、部材・エネルギーコストの高騰影響などを受けるも、増収に伴う増益により上半期過去最高益を達成。
- ▶ 当社株主帰属四半期純利益は、前年に投資有価証券評価益があり減益。

■ 第2四半期(3ヶ月)

- ▶ 売上高・営業利益・当社株主帰属四半期純利益のいずれも過去最高を更新。

2023年3月期 通期連結業績予想

	売上高	営業利益	当社株主帰属 当期純利益
	2兆8,000億円	2,600億円	2,000億円
	対前回予想(8/10) (+1,000億円)	過去最高 (+100億円)	(+50億円)

- ▶ 為替前提の見直しや今後の事業状況及び上期の業績を反映し、通期業績予想を上方修正。中期経営計画「VISION2023」の業績目標を1年前倒しでの達成を目指す。
- ▶ 年間配当は、13期連続増配となる120円/株を予定。

© FUJIFILM Holdings Corporation 4

上期の売上高は1兆3,499億円、営業利益は過去最高益の1,208億円となりました。

売上高は、メディカルシステムや電子材料、イメージングの販売が好調だったことに加え、為替影響もあり、増収となりました。

営業利益は、部材・エネルギーコストの高騰影響などがある中でも、増収に伴う増益で、過去最高益を達成しました。

当社株主帰属四半期純利益は、前年に出資会社上場による投資有価証券の評価益を計上したことなどにより、わずかに減益となりました。

第2四半期の業績については、第1四半期に対して順調に伸長し、売上高、営業利益、当社株主帰属四半期純利益がいずれも、第2四半期として過去最高を更新しました。

2023年3月期の通期連結業績予想は、前回予想から売上高は1,000億円増の2兆8,000億円、営業利益は100億円増の2,600億円、当社株主帰属当期純利益は50億円増の2,000億円に上方修正し、中期経営計画「VISION2023」の業績目標を1年前倒しでの達成を目指します。

2023年3月期の年間配当は、13期連続増配となる120円を予定します。

2023年3月期 第2四半期 決算トピックス

バイオCDMO

成長が期待されるアジア市場でのビジネス拡大と、日本のワクチン生産体制強化に向けて、当社国内初のバイオCDMO拠点を富山に新設

※ 富士フイルム富山化学株式会社が、既存工場の敷地内に、バイオ医薬品の生産プロセス開発及び治験薬製造・商業生産が可能な新棟を建設。
 ※ 新拠点は経済産業省の「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」に採択



新拠点のポイント

デュアルユース

バイオ医薬品(抗体医薬、抗体薬物複合体、mRNA)
ADC (Antibody-drug conjugate)



ワクチン(mRNA、遺伝子組換えタンパク)

2022/11時点	欧州			米国				日本
	ピリンガム 英国	ヒルロッド デンマーク	ボストン	モリスビル ノースカロライナ	ホーリースプリングス ノースカロライナ	テキサス	カリフォルニア	富山 <small>(2026年度稼働)</small>
サービス					(2025年度稼働)			
原薬：抗体医薬	●	●		●	●	●		●
原薬：タンパク製剤	●			●				
原薬：遺伝子・細胞治療薬	●		●				●	
原薬：ワクチン	●			●		●		●
製剤		●			●	●	●	●
組み立て・ラベル貼付・梱包		●			●			●

*低分子医薬は除く

© FUJIFILM Holdings Corporation 5

次に第2四半期のトピックスをお話します。

まず、10月に発表したバイオCDMO拠点の新設についてです。

今後成長が期待されるアジア市場でのビジネス拡大と、日本のワクチン生産体制強化に向けて、富士フイルム富山化学株式会社が、当社グループとして国内初のバイオCDMO拠点を富山県に新設することを決定しました。新拠点は、2026年度の稼働を予定しています。

今回の新拠点設立は、経済産業省が推進する「ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業」に採択されています。

新拠点の特長は、平時には抗体医薬品・ADCといったバイオ医薬品のプロセス開発・製造受託サービスを製薬企業に提供し、事業成長を加速させていく一方、パンデミック時にはmRNAワクチン・遺伝子組換えタンパクワクチンの受託製造サービスを通じて、製薬企業による国産ワクチンの迅速開発・供給をサポートすることが可能なデュアルユース設備を整備していることです。

当社は、抗体医薬、組換えタンパク製剤、遺伝子治療薬、細胞治療薬、ワクチンなど様々なモダリティを対象に生産プロセスの開発受託、並びに小規模生産から大規模生産、原薬生産から製剤・包装までの製造受託ニーズに応えることで、医薬品業界におけるベストパートナーとなり、更なる成長を目指します。

2023年3月期 第2四半期 決算トピックス

電子材料

半導体製造プロセスの基幹材料であるCMP^{*1}スラリーを生産する最新鋭設備を熊本に導入^{*2}。事業拡大に向けた成長投資により、ワンストップソリューションを提供する半導体材料メーカーへと進化し、FY2026に2,500億円、FY2030に4,000億円の売上高を目指す。

^{*1} Chemical Mechanical Polishing（化学的機械研磨）の略。

^{*2} ディスプレイ材料の主要生産拠点である富士フイルム九州の工場内に導入。

半導体市場の成長加速

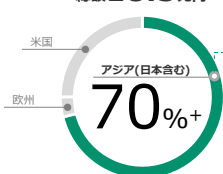
2021年 72兆円 ▶ 2026年 100兆円

経済安全保障の観点から各国政府の支援を背景とした半導体メーカーの積極投資

世界半導体設備投資^{*}

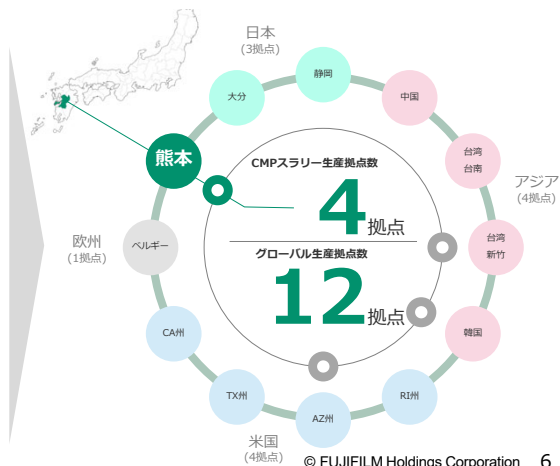
2021年

総額 18.5兆円



- ① 約1,000社の半導体関連企業が集積する九州に最新鋭設備を新設
- ② ものづくり産業の持続的成長に取り組む熊本県・自治体のバックアップ
- ③ ディスプレイ材料を製造する富士フイルム九州(菊陽町)の用地・人材を活用

^{*}IC Insights、及び、グローバルネット刊「世界半導体工場年報2021」から当社試算



次に、9月に発表しました最先端半導体材料に対応した生産設備の新設についてです。

AI/IoT や5Gの進展などによる新たな半導体の需要の拡大に加えて、経済安全保障の観点から各国政府の支援を背景とした半導体メーカーによる積極的な投資が計画されています。

今回、半導体産業のサプライチェーンを担う九州、中でも、ものづくり産業の持続的成長に取り組む熊本県・自治体のバックアップを受け、CMP スラリーの国産化と生産能力増強に向けて、これまでディスプレイ材料を生産してきた富士フイルム九州の工場内に、CMP スラリーの生産設備や品質評価機器を導入します。

新たな設備・機器と、ディスプレイ材料の製造で顧客の高い品質要求に应运きた富士フイルム九州の人材・生産ノウハウなどを組み合わせて、高品質・高性能なCMP スラリーを生産していきます。

本設備は、2024年1月の稼働を予定し、CMP スラリーの安定・迅速供給を実現する世界4拠点生産体制の一角を担います。

当社の電子材料事業は、CMP スラリーのみならず、ポストCMP クリーナーやフォトレジスト、フォトリソ周辺材料、ポリイミド、イメージセンサー用材料などの幅広い製品ポートフォリオのもと、ワンストップソリューションを提供することで2026年度2,500億円、2030年度には4,000億円の売上高を目指します。

④ 健康 (Health)

「世界の保健医療水準を高めるための結核対策への取り組み」

(第8回南アフリカ開発会議「TICAD8」の公式サイドイベント「Global Health Action Japan」で紹介)



- ▶ 結核による死亡率が高い開発途上国で、診断機器が不足している地域のプライマリセンターに携帯型X線撮影装置「FDR Xair」やAI技術を活用した診断支援のソフトウェアを展開。
- ▶ 世界中で実施される結核検診の検査から投薬治療までのデータをクラウド上で一元管理するソフトウェアを開発中。



結核による年間死亡者数(世界)

150万人

タイムリーに診断・治療が受けられない患者数

400万人

年間結核患者数(世界)

1,000万人

© FUJIFILM Holdings Corporation 7

次にサステナビリティへの取り組みを紹介します。

当社は、事業を通じた社会課題の解決を経営の根幹に据え、2030年度をターゲットとして長期的に目指す姿を示したCSR計画「Sustainable Value Plan 2030」で、4つの重点分野を掲げています。

その中で「健康」における取り組みについてお話しします。

8月に第8回アフリカ開発会議「TICAD8」の公式サイドイベント「Global Health Action Japan」に登壇しました。そこで、ポータブルX線撮影装置「FDR Xair」で世界の結核対策への取り組みを紹介しました。結核は、マラリア、エイズと並ぶ世界三大感染症の一つで、2020年には世界で開発途上国を中心に推定1,000万人が結核に罹患し、400万人は適切な検査や治療を受けることができず、150万人の方が亡くなっています。この課題の解決策として、診断機器が不足している地域のプライマリヘルスセンターに「FDR Xair」やAI技術を活用した診断支援のソフトウェアを展開することに取り組んでいます。また、今後更なる貢献を目指し、世界中で実施される結核検診の検査から投薬治療までのデータをクラウド上で一元管理するソフトウェアを開発中です。

また、当社は、インドで新たに設立した健康診断センター「NURA」を通じて、途上国での予防医療文化の定着に向けた活動にも取り組んでいます。このような医療格差の解消というグローバルでの大きな社会課題に企業として真正面から向き合い、解決に組み込み、サステナブル社会の実現を目指していきます。



02 2023年3月期 第2四半期 連結業績及び事業概況

2023年3月期 上期 業績 (2022年4月～9月)

(単位：億円)

	上期				
	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	12,051 100.0%	13,499 100.0%	1,448 +12.0%	1,137	311 +2.6%
営業利益	1,079 9.0%	1,208 8.9%	129 +12.0%	228	-99 -9.1%
税金等調整前四半期純利益	1,299 10.8%	1,295 9.6%	-4 -0.3%	280	-284 -21.8%
当社株主帰属四半期純利益	963 8.0%	952 7.0%	-11 -1.1%	194	-205 -21.3%
1株当たり当社株主帰属四半期純利益	240.55円	237.39円	-3.16円	<その他増減要因 (対前年度)> 営業利益における 原材料価格影響： -117億円 (半導体等の部材価格は含まず)	
為替	：米ドル	110円	25円安		
	：ユーロ	131円	8円安		

© FUJIFILM Holdings Corporation 9

2023年3月期 上期の業績は、

売上高は、メディカルシステムや電子材料、イメージングの販売好調や、為替影響などにより、前年比12.0%増の1兆3,499億円、

営業利益は、部材・エネルギーコストの高騰影響などがある中でも、増収に伴う増益で前年比12%増の1,208億円となりました。

当社株主帰属四半期純利益は、前年に出資会社上場による投資有価証券の評価益計上などがあり、前年比1.1%減の952億円となりました。

2023年3月期 上期(2022年4月～9月)

セグメント別 連結売上高 | 営業利益

(単位：億円)

売上高	上期		対前年度			
	2022年 3月期	2023年 3月期			為替影響除く	
ヘルスケア	3,756	4,161	405	+10.8%	-5	-0.1%
マテリアルズ	3,078	3,520	442	+14.3%	111	+3.5%
ビジネスイノベーション	3,734	3,984	250	+6.7%	58	+1.6%
イメージング	1,483	1,834	351	+23.7%	147	+9.9%
合計	12,051	13,499	1,448	+12.0%	311	+2.6%

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	上期		対前年度			
	2022年 3月期	2023年 3月期			為替影響除く	
ヘルスケア	470	436	-34	-7.3%	-147	-31.4%
マテリアルズ	390	394	4	+0.8%	-96	-24.9%
ビジネスイノベーション	257	301	44	+17.5%	96	+37.6%
イメージング	124	266	142	2.1倍	73	+59.2%
全社/連結調整	-162	-189	-27	-	-25	-
合計	1,079	1,208	129	+12.0%	-99	-9.1%

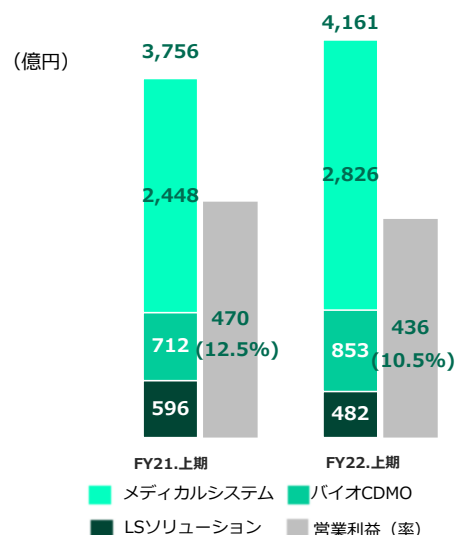
※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 10

セグメント別の売上・利益はご覧の通りです。

セグメント別概況：ヘルスケア

メディカルシステム、バイオCDMOの増収により、売上高は対前年+10.8%、前年のコロナ関連需要の一巡により、営業利益は対前年-7.3%となり、増収・減益で着地。



メディカルシステム 売上高 2,826億円 (対前年+15.4%)

- 医療IT、内視鏡、IVD（体外診断）、CT・MRIなどの販売が好調に推移し、増収。
- CT・MRIでは、半導体等部品不足の影響を受けるも、富士フィルムヘルスケアの製品を富士フィルムの販路を活用し拡販するクロスセルがアジア・中南米を中心に増収に寄与するなど、グループシナジーを創出。

バイオCDMO 売上高 853億円 (対前年+19.9%)

- バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託がデンマーク拠点で堅調に推移したことや、ワクチン原薬製造に関するキャンセルフィー収入を計上したことなどにより、増収。
- 成長が期待されるアジア市場でのビジネス拡大と、日本のワクチン生産体制強化に向けて、当社国内初のバイオCDMO拠点を富山に新設することを決定。

LSソリューション 売上高 482億円 (対前年-19.1%)

- ライフサイエンスは、バイオ医薬品製造用培地がコロナ関連特需の一巡により、減収。
- 医薬品は、2022年3月に完了した放射性医薬品事業の譲渡により、減収。

※LSソリューション：ライフサイエンス事業（細胞・培地・試薬）、医薬品事業、コンシューマーヘルスケア事業（化粧品・サプリメント）から構成される開示セグメント

ヘルスケアの業績の概要を説明します。

メディカルシステム、バイオCDMOの増収により、売上高は、前年比10.8%増の4,161億円、営業利益は、バイオCDMOにおいて、前年にワクチン製造に関わる助成金収入があったことや、LSソリューションの減収などにより、前年比7.3%減の436億円となりました。

メディカルシステムは、医療IT、内視鏡、IVD（体外診断）、CT・MRIなどの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

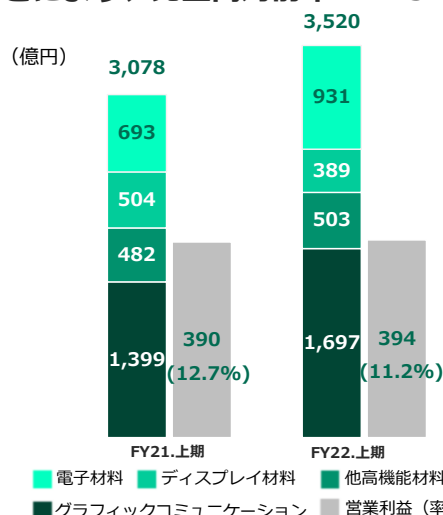
CT・MRIは、半導体等部品不足の影響を受けましたが、昨年度より当社グループに加わった富士フィルムヘルスケアのCT・MRIなどの製品を、富士フィルムの販路を活用し拡販するクロスセルの効果がアジア・中南米を中心に寄与するなど、グループシナジーを順調に創出しています。

バイオCDMOは、バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託がデンマーク拠点で堅調に推移したことや、ワクチン原薬製造に関するキャンセルフィー収入を計上したことなどにより、増収となりました。

LSソリューションは、ライフサイエンスで、バイオ医薬品製造用培地のコロナ関連特需が一巡したことや、医薬品の2022年3月に完了した放射性医薬品事業売却による減収が影響し、減収となりました。

セグメント別概況：マテリアルズ

先端半導体需要の増加に伴う電子材料の伸長と、グラフィックコミュニケーションの増収などにより、売上高対前年+14.3%、営業利益対前年+0.8%と増収・増益で着地。



電子材料 売上高 931億円 (対前年+34.3%)

- 先端半導体需要の増加に伴い、CMPスラリーやフォトリソ周辺材料などの製品群で販売が好調に推移し、増収。

ディスプレイ材料 売上高 389億円 (対前年-22.7%)

- 前年にCOVID-19の流行下でモニター、タブレット及びTV需要が増加したことの反動や、サプライチェーン全体での生産調整の影響を受け、減収。

他高機能材料 売上高 503億円 (対前年+4.5%)

- 産業機材で、欧米の航空業界やオイルガス業界向けの非破壊検査機器・材料の販売が好調などにより、増収。

グラフィックコミュニケーション 売上高 1,697億円 (対前年+21.2%)

- グラフィックコミュニケーションでは、刷版材料分野で販売価格の見直しを実施したことに加え、デジタル印刷分野で、プロダクションプリンターの欧米向け出荷が市況回復により伸長し、増収。
- インクジェットでは、産業用インクジェットヘッドの販売が、主に欧州の建材印刷市場での需要増により好調に推移したことなどにより、増収。

※ 他高機能材料：産業機材事業、ファインケミカル事業、記録メディア事業から構成される開示セグメント

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスインベション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリスタートしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 12

マテリアルズの業績の概要について説明します。

先端半導体を中心とした需要の増加に伴う電子材料の伸長と、グラフィックコミュニケーションの増収などにより、売上高は、前年比14.3%増の3,520億円、営業利益は、前年比0.8%増の394億円となりました。

電子材料は、CMPスラリーやフォトリソ周辺材料などの製品の販売が好調に推移し、売上が増加しました。

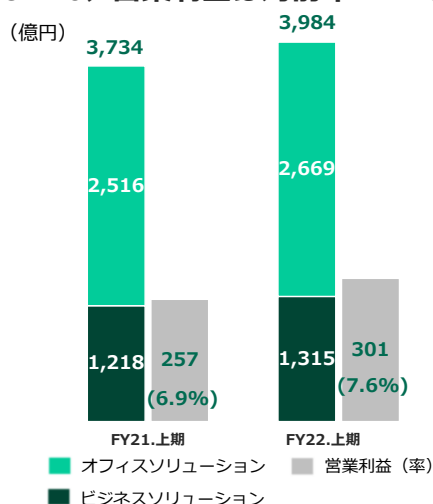
ディスプレイ材料は、前年にCOVID-19の流行下でモニター、タブレット、TV需要が増加したことの反動や、サプライチェーン全体での生産調整の影響を受け、売上が減少しました。

グラフィックコミュニケーションは、刷版材料分野において原材料価格の高騰に伴い販売価格を見直し、また、デジタル印刷分野では、プロダクションプリンターの欧米向け出荷が市況回復により伸長し、売上が増加しました。

インクジェットでは、産業用インクジェットヘッドの販売が、主に欧州の建材印刷市場での需要増により好調に推移したことなどにより、売上が増加しました。

セグメント別概況：ビジネスイノベーション

オフィスソリューション及びビジネスソリューションともに販売が増加し、売上高は対前年+6.7%、営業利益は対前年+17.5%と増収・増益で着地。



オフィスソリューション 売上高 2,669億円 (対前年+6.1%)

- 上期は中国ロックダウンの影響を受けるも、製品供給は順調に回復し、欧米向け輸出を中心に複合機・プリンターおよび消耗品の売上が増加。
- サプライチェーンにおける部材供給逼迫に対しては、開発・調達・生産機能の緊密な連携による部品確保や代替部品の早期導入を継続することで、製品供給制約に対応。
- 部材価格の高騰が続くも、国内・海外において11月より製品価格改定を実施し、収益性の確保を推進。

ビジネスソリューション 売上高 1,315億円 (対前年+8.0%)

- 国内での大型案件獲得やソリューション・サービスの販売増に加え、海外でBPO※事業の売上が増加。
※ビジネスプロセスアウトソーシング
- 中堅・中小企業のDX課題を支援する「Bridge DX Library」は、合計103種類のソリューションにラインアップを拡大。建設業や製造業などの4業種及び業種共通の電子帳簿保存法やインボイス制度対応、セキュリティ強化等の業務課題ソリューションを提供。当社が蓄積してきた課題解決の成功事例と豊富なソリューション・サービスを組み合わせた提案を強みとし、お客様のDX推進を支援。

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替え、複合機に関わる一部ソリューション事業の売上高・営業利益の金額を「オフィスソリューション」から「ビジネスソリューション」に組み替えています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリセットしています。

ビジネスイノベーションの業績の概要について説明します。

オフィスソリューション及びビジネスソリューションともに販売が増加し、売上高は、前年比6.7%増の3,984億円、営業利益は、前年比17.5%増の301億円となりました。

オフィスソリューションでは、中国ロックダウンの影響を受けましたが、製品供給は順調に回復し、欧米向け輸出を中心に複合機・プリンター及び消耗品が伸長するなど、売上が増加しました。

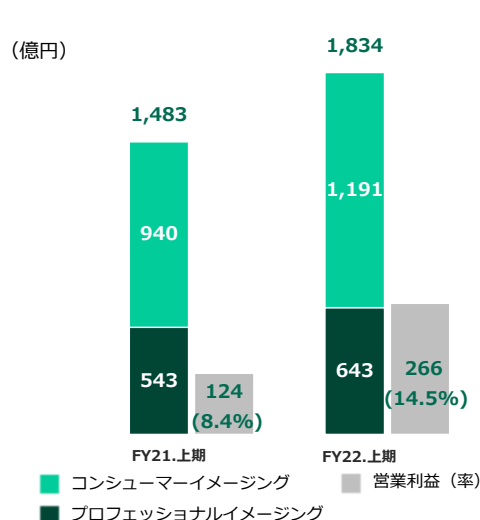
サプライチェーンにおける部材供給逼迫に対しては、開発・調達・生産機能の緊密な連携による部品確保や代替部品の早期導入を継続することで、製品供給制約に対応するとともに、11月より製品価格改定を実施し、収益性の確保を推進しています。

ビジネスソリューションは、国内での大型案件獲得やソリューション・サービスの販売増に加え、海外でのBPO事業の売上増加などにより、増収となりました。お客様のDX課題解決を強力に支援し、中堅・中小企業のDXを加速する新ソリューション「Bridge DX Library」は、2022年7月に合計103種類のソリューションにラインアップを拡大しました。

建設業や製造業、医療機関、福祉サービスの4業種向けソリューションおよび業種共通の電子帳簿保存法やインボイス制度対応、セキュリティ強化等の業務課題ソリューションを提供し、当社が蓄積してきた課題解決の成功事例と豊富なソリューション・サービスを組み合わせた提案を強みとして、お客様のDX推進を支援しています。

セグメント別概況：イメージング

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高対前年+23.7%、営業利益対前年2.1倍と増収・増益で着地。



コンシューマーイメージング 売上高 1,191億円 (対前年+26.6%)

- ・ インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、増収。
- ・ 2022年7月に、スマホプリンター「INSTAX mini Link2」を発売、AR(拡張現実)技術を活用した空間描画機能「instaxAiR」など、新たな機能を搭載し市場から高い評価を獲得。2022年11月に、スマホの画像をスクエアフォーマットのチェキフィルムに出力できるスマホプリンター「INSTAX SQUARE Link」を発売。

プロフェッショナルイメージング 売上高 643億円 (対前年+18.6%)

- ・ デジタルカメラは、2022年7月に発売した新製品「FUJIFILM X-H2S」などの販売が好調に推移し、増収。
- ・ 2022年9月に、4020万画素の裏面照射型CMOSセンサーを搭載し、圧倒的な解像力を生かした風景やポートレートなどの写真撮影に加え、高精細な8K映像撮影が可能な「FUJIFILM X-H2」を発売。

イメージングの業績の概要について説明します。

インスタントフォトシステムやデジタルカメラの販売が好調に推移し、売上高は、前年比23.7%増の1,834億円、営業利益は、前年比2.1倍の266億円となりました。

コンシューマーイメージングでは、インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調で、売上が増加しました。インスタントフォトシステムは、2022年7月にスマートフォン用プリンター「INSTAX mini Link2」を発売、AR(拡張現実)技術を活用した空間描画機能「instaxAiR」など、新たな機能を搭載し市場から高い評価を受けています。2022年11月には、スマホの画像をスクエアフォーマットのチェキフィルムに出力できるスマホプリンター「INSTAX SQUARE Link」を発売します。

プロフェッショナルイメージングでは、2022年7月に発売した新製品「FUJIFILM X-H2S」の販売が好調で、売上が増加しました。2022年9月には、4020万画素の裏面照射型CMOSセンサーを搭載し、圧倒的な解像力を生かした風景やポートレートなどの写真撮影に加え、高精細な8K映像撮影が可能な「FUJIFILM X-H2」を発売しました。

2023年3月期 上期(2022年4月～9月)

連結貸借対照表

					(単位：億円)				
	21年 3月期末	22年 3月期末	23年3月期 9月末	対22年 3月期末		21年 3月期末	22年 3月期末	23年3月期 9月末	対22年 3月期末
現金及び現金同等物	3,948	4,863	4,469	-394	長短社債及び借入金	5,030	4,472	5,204	732
受取債権	6,057	5,986	6,248	262	支払債務	2,399	3,032	3,318	286
棚卸資産	4,177	5,045	6,265	1,220	その他流動・固定負債	5,841	6,800	6,839	39
その他流動資産	892	1,353	1,639	286	負債計	13,270	14,304	15,361	1,057
流動資産計	15,074	17,247	18,621	1,374	株主資本計	22,046	25,027	27,241	2,214
有形固定資産	6,353	7,368	8,638	1,270	非支配持分	176	222	263	41
営業権	8,042	8,240	8,704	464	純資産計	22,222	25,249	27,504	2,255
その他固定資産	6,023	6,698	6,902	204	負債・純資産合計	35,492	39,553	42,865	3,312
固定資産計	20,418	22,306	24,244	1,938	(単位：円)				
資産合計	35,492	39,553	42,865	3,312	期末日 為替レート	21年 3月期末	22年 3月期末	23年3月期 9月末	対22年 3月期末
					米ドル	111	122	145	23円安
					ユーロ	130	137	142	5円安

© FUJIFILM Holdings Corporation 15

バランスシートについて説明します。

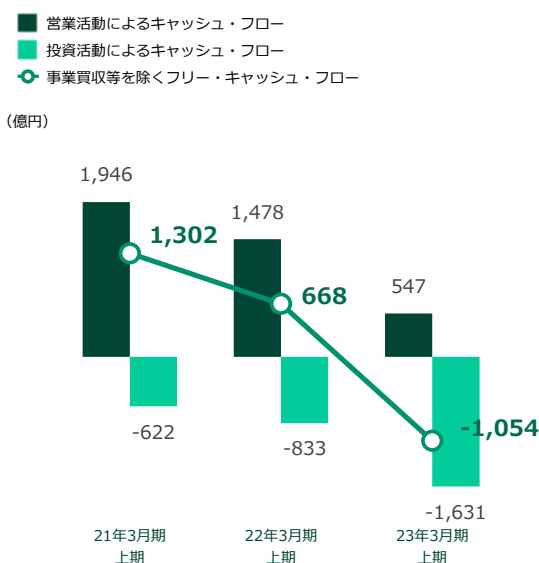
2023年3月期9月末時点の資産合計は、棚卸資産の増加などにより、2022年3月期末時点と比べ、3,312億円増の4兆2,865億円となりました。

負債は、ソーシャルボンドを発行したことなどにより、1,057億円増の1兆5,361億円となりました。

株主資本は2,214億円増の2兆7,241億円となりました。

2023年3月期 上期(2022年4月～9月)

連結キャッシュ・フロー



(単位：億円)

	21年3月期 上期	22年3月期 上期	23年3月期 上期
当期純利益	683	984	966
減価償却費	601	650	708
受取債権の増(-)減(+)	653	579	93
棚卸資産の増(-)減(+)	-262	-473	-894
営業債務の増(+)-減(-)	-175	29	158
その他	446	-291	-484
営業活動によるCF	1,946	1,478	547
設備投資	-490	-584	-1,186
ソフトウェアの購入	-97	-176	-280
投資有価証券の売却・購入等	22	-23	124
事業買収	0	0	-154
その他	-57	-50	-135
投資活動によるCF	-622	-833	-1,631
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	1,324	645	-1,084
事業買収等を除くFCF※	1,302	668	-1,054

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収、及び投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 16

キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、部材の需給逼迫に備えるために一時的に在庫を積み増していることなどにより、547億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、バイオCDMOを中心とする設備投資などにより1,631億円の支出となりました。

この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、1,054億円の支出となりました。

2023年3月期の通期では、在庫として積み増した部材を活用して製品の払い出しを進め、計画通り営業活動によるキャッシュ・フローで2,900億円の収入を見込みます。また、設備投資やソフトウェアの購入に4,200億円の支出を計画します。

今年度の利益目標を達成するとともに、CCC向上を推進してキャッシュを創出し、成長投資を行っていきます。

2023年3月期第2四半期決算の説明は以上です。

03 2023年3月期 連結業績予想

2023年3月期 通期連結業績予想 (2022年11月10日時点)

	(単位：億円)				
	2022年3月期	2023年3月期 前回予想 (2022/8/10公表値)	2023年3月期 今回予想 (2022/11/10公表値)	対前年度	対前回予想
売上高	25,258 100%	27,000 100%	28,000 100%	2,742 +10.9%	1,000 +3.7%
営業利益	2,297 9.1%	2,500 9.3%	過去 最高 2,600 9.3%	303 +13.2%	100 +4.0%
税金等調整前当期純利益	2,604 10.3%	2,600 9.6%	過去 最高 2,700 9.6%	96 +3.7%	100 +3.8%
当社株主帰属当期純利益	2,112 8.4%	1,950 7.2%	2,000 7.1%	-112 -5.3%	50 +2.6%
1株当たり当社株主帰属当期純利益 ^(※1)	527.33円	486.53円	498.64円	-28.69円	+12.11円
ROE	9.0%	7.6%	7.6%	-1.4%	-
ROIC	5.6%	5.7%	5.7%	+0.1%	-
CCC	122日	114日	114日	-8日	-
為替 ^(※2) ：米ドル	113円	126円	135円	22円安	9円安
：ユーロ	131円	134円	136円	5円安	2円安
銀価格 (/kg)	89,000円	97,000円	94,000円	+5,000円	-3,000円

※1 1株当たり当社株主帰属当期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2022年9月30日現在の発行株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

※2 2023年3月期 営業利益 為替感応度 米ドル：3億円/年、ユーロ：8億円/年

© FUJIFILM Holdings Corporation 18

2023年3月期の連結業績予想は、第2四半期の実績と今後の市場動向の反映、また、第3四半期以降の為替前提を見直し、売上高は、前回予想から1,000億円増の2兆8,000億円にします。

営業利益は、ビジネスイノベーションの一時費用の増加などを織り込みますが、イメージの増収などの影響や為替前提の見直しを加味し、前回予想から100億円増の2,600億円に、当社株主帰属当期純利益は、50億円増の2,000億円にそれぞれ上方修正します。

セグメント別業績予想 (2022年11月10日時点)

(単位: 億円)

売上高	2022年3月期	2023年3月期 前回予想 (2022/8/10公表値)	2023年3月期 今回予想 (2022/11/10公表値)	対前回予想	
					内、為替影響
ヘルスケア	8,017	8,600	8,900	300	300
マテリアルズ	6,308	6,800	7,050	250	250
ビジネスイノベーション	7,599	8,000	8,150	150	150
イメージング	3,334	3,600	3,900	300	165
合計	25,258	27,000	28,000	1,000	865

(単位: 億円)

営業利益	2022年3月期	2023年3月期 前回予想 (2022/8/10公表値)	2023年3月期 今回予想 (2022/11/10公表値)	対前回予想	
					内、為替影響
ヘルスケア	1,005	1,120	1,150	30	75
マテリアルズ	687	720	720	-	65
ビジネスイノベーション	576	670	630	-40	-30
イメージング	370	420	520	100	50
本社/連結調整	-341	-430	-420	10	-
合計	2,297	2,500	2,600	100	160

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリスタートしています。

セグメント別業績予想はご覧の通りです。

売上高は、全セグメントを上方修正します。

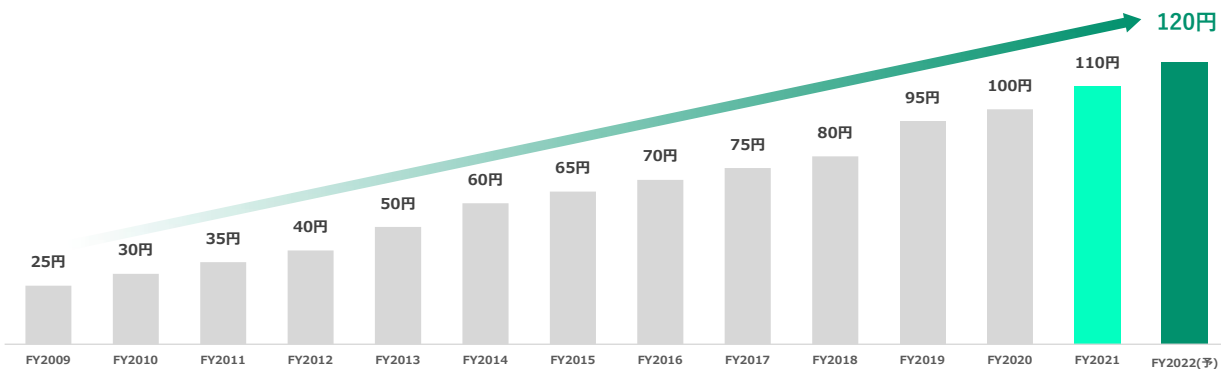
サブセグメント別の修正については、説明資料の29ページをご参照下さい。

営業利益は、一時費用を増やし、為替のドル高がマイナスに影響するビジネスイノベーションを下方修正しますが、ヘルスケア、イメージングをそれぞれ上方修正します。

株主還元

配当金

➤ 2023年3月期の年間配当は、13期連続増配となる120円/株を予定



自己株式取得

➤ キャッシュフローを勘案し、株価の推移に応じて機動的に実施

年間配当は、冒頭に後藤からお伝えしました通り、13期連続増配となる120円を予定しています。

04 2023年3月期 第2四半期
参考資料

参考資料

2Q | 上期 業績

(単位：億円)

	2Q					上期				
	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	6,224 100.0%	7,240 100.0%	1,016 +16.3%	704	312 +5.0%	12,051 100.0%	13,499 100.0%	1,448 +12.0%	1,137	311 +2.6%
営業利益	516 8.3%	712 9.8%	196 +38.3%	136	60 +11.9%	1,079 9.0%	1,208 8.9%	129 +12.0%	228	-99 -9.1%
税金等調整前四半期純利益	521 8.4%	743 10.3%	222 +42.6%	150	72 +14.0%	1,299 10.8%	1,295 9.6%	-4 -0.3%	280	-284 -21.8%
当社株主帰属四半期純利益	390 6.3%	538 7.4%	148 +38.1%	104	44 +11.5%	963 8.0%	952 7.0%	-11 -1.1%	194	-205 -21.3%
為替 ：米ドル	111円	139円	28円安			110円	135円	25円安		
：ユーロ	130円	139円	9円安			131円	139円	8円安		

<その他増減要因 (2Q/上期 対前年度)>

営業利益における原材料価格影響： -55億円/-117億円

参考資料

2Q | 上期 業績 : セグメント別 連結売上高 | 営業利益

売上高	2Q						上期					
	2022年	2023年	対前年度		為替影響除く		2022年	2023年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
ヘルスケア	2,014	2,359	345	+17.1%	81	+4.0%	3,756	4,161	405	+10.8%	-5	-0.1%
マテリアルズ	1,580	1,770	190	+12.0%	-5	-0.4%	3,078	3,520	442	+14.3%	111	+3.5%
ビジネスイノベーション	1,873	2,102	229	+12.2%	110	+5.9%	3,734	3,984	250	+6.7%	58	+1.6%
イメージング	757	1,009	252	+33.3%	126	+16.8%	1,483	1,834	351	+23.7%	147	+9.9%
合計	6,224	7,240	1,016	+16.3%	312	+5.0%	12,051	13,499	1,448	+12.0%	311	+2.6%

*セグメント間取引消去後

営業利益 【営業利益率】	2Q						上期					
	2022年	2023年	対前年度		為替影響除く		2022年	2023年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
ヘルスケア	263 [13.1%]	328 [13.9%]	65	+24.4%	-10	-4.2%	470 [12.5%]	436 [10.5%]	-34	-7.3%	-147	-31.4%
マテリアルズ	177 [11.2%]	166 [9.3%]	-11	-6.9%	-63	-36.6%	390 [12.7%]	394 [11.2%]	4	+0.8%	-96	-24.9%
ビジネスイノベーション	117 [6.2%]	159 [7.6%]	42	+37.1%	74	+64.1%	257 [6.9%]	301 [7.6%]	44	+17.5%	96	+37.6%
イメージング	44 [5.8%]	161 [15.9%]	117	3.7倍	76	2.7倍	124 [8.4%]	266 [14.5%]	142	2.1倍	73	+59.2%
全社/連結調整	-85	-102	-17	-	-17	-	-162	-189	-27	-	-25	-
合計	516 [8.3%]	712 [9.8%]	196	+38.3%	60	+11.9%	1,079 [9.0%]	1,208 [8.9%]	129	+12.0%	-99	-9.1%

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリセットしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 23

参考資料

2Q | 上期 業績 : ヘルスケア

(単位: 億円)

売上高	2Q						上期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			対前年度	対前年度	為替影響除く	為替影響除く			対前年度	対前年度	為替影響除く	為替影響除く
メディカルシステム	1,306	1,549	243	+18.5%	97	+7.3%	2,448	2,826	378	+15.4%	138	+5.6%
バイオCDMO	373	547	174	+46.7%	76	+20.5%	712	853	141	+19.9%	3	+0.6%
LSソリューション	335	263	-72	-21.2%	-92	-27.1%	596	482	-114	-19.1%	-146	-24.5%
合計	2,014	2,359	345	+17.1%	81	+4.0%	3,756	4,161	405	+10.8%	-5	-0.1%

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q						上期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			対前年度	対前年度	為替影響除く	為替影響除く			対前年度	対前年度	為替影響除く	為替影響除く
ヘルスケア	263 [13.1%]	328 [13.9%]	65	+24.4%	-10	-4.2%	470 [12.5%]	436 [10.5%]	-34	-7.3%	-147	-31.4%

参考資料

2Q | 上期 業績 : マテリアルズ

(単位: 億円)

売上高	2Q					上期						
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		
電子材料	356	485	129	+36.2%	49	+13.7%	693	931	238	+34.3%	102	+14.6%
ディスプレイ材料	256	152	-104	-40.5%	-103	-40.2%	504	389	-115	-22.7%	-115	-22.8%
他高機能材料	244	252	8	+3.5%	-19	-8.2%	482	503	21	+4.5%	-28	-5.8%
グラフィックコミュニケーション	724	881	157	+21.5%	68	+9.4%	1,399	1,697	298	+21.2%	152	+10.7%
合計	1,580	1,770	190	+12.0%	-5	-0.4%	3,078	3,520	442	+14.3%	111	+3.5%

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 【営業利益率】	2Q					上期						
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		
マテリアルズ	177 [11.2%]	166 [9.3%]	-11	-6.9%	-63	-36.6%	390 [12.7%]	394 [11.2%]	4	+0.8%	-96	-24.9%

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリスタートしています。

参考資料

2Q | 上期 業績 : ビジネスイノベーション

(単位 : 億円)

売上高	2Q						上期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
オフィスソリューション	1,240	1,380	140	+11.3%	54	+4.3%	2,516	2,669	153	+6.1%	14	+0.6%
ビジネスソリューション	633	722	89	+14.1%	56	+9.0%	1,218	1,315	97	+8.0%	44	+3.6%
合計	1,873	2,102	229	+12.2%	110	+5.9%	3,734	3,984	250	+6.7%	58	+1.6%

*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q						上期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
ビジネスイノベーション	117 [6.2%]	159 [7.6%]	42	+37.1%	74	+64.1%	257 [6.9%]	301 [7.6%]	44	+17.5%	96	+37.6%

※ 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替え、複合機に関わる一部ソリューション事業の売上高・営業利益の金額を「オフィスソリューション」から「ビジネスソリューション」に組み替えています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

参考資料

2Q | 上期 業績 : イメージング

(単位: 億円)

売上高	2Q						上期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
コンシューマーイメージング	491	650	159	+32.2%	67	+13.8%	940	1,191	251	+26.6%	103	+10.9%
プロフェッショナルイメージング	266	359	93	+35.3%	59	+22.2%	543	643	100	+18.6%	44	+8.2%
合計	757	1,009	252	+33.3%	126	+16.8%	1,483	1,834	351	+23.7%	147	+9.9%

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q						上期					
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く		2022年 3月期	2023年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			金額	増減率	金額	増減率			金額	増減率	金額	増減率
イメージング	44 [5.8%]	161 [15.9%]	117	3.7倍	76	2.7倍	124 [8.4%]	266 [14.5%]	142	2.1倍	73	+59.2%

営業利益増減分析(上期実績 対前年)

(単位: 億円)

	上期		対前年度	為替	原材料価格	一時費用	中国 ロックダウン	オペレー ション等 ^{※1}	
	2022年 3月期	2023年 3月期							
ヘルスケア	470	436	-34	-7.3%	113	-9	-7	-11	-120
マテリアルズ	390	394	4	+0.8%	100	-96	15	-6	-9
※5 ビジネスイノベーション	257	301	44	+17.5%	-52	-	47	-8	57
イメージング	124	266	142	2.1倍	69	-12	6	-15	94
全社/連結調整	-162	-189	-27	-	-2	-	-	-	-25
合計	1,079	1,208	129	+12.0%	※2 228	※3 -117	※4 61	-40	-3

※1 半導体需給逼迫に伴う部材価格及び物流コストの高騰影響も含む

※2: 為替レート

	2022年 3月期	2023年 3月期
米ドル	110円	135円
ユーロ	131円	139円

※3: 原材料別(半導体影響は除く)

	上期
銀	-1
アルミ	-54
他(燃料等)	-62
合計	-117

※4: 一時費用明細

	2022年 3月期		2023年 3月期		差異
	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	
ヘルスケア	31	38	-	-	-7
新規興収社(CDMO)	-	-	-	33	-33
新規興収社(メディカル)	31	-	-	-	31
その他	-	-	-	5	-5
マテリアルズ	23	8	23	8	15
グラフィック等	-	-	-	-	-
ビジネスイノベーション	87	40	87	40	47
体質強化費用	30	24	30	24	6
新ブランド移行費用	57	16	57	16	41
イメージング	22	16	22	16	6
体質強化費用等	22	16	22	16	6
全社	-	-	-	-	-
合計	163	102	163	102	61

※5 印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替えて表示しています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリステートしています。

参考資料

2023年3月期 通期連結業績予想 (2022年11月10日時点)

事業別売上高

(単位:億円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 前回予想(8/10)	2023年3月期 今回予想(11/10)	対前年度		対前回予想	
ヘルスケア	8,017	8,600	8,900	883	+11.0%	300	+3.5%
メディカルシステム	5,338	5,850	6,050	712	+13.3%	200	+3.4%
バイオCDMO	1,503	1,650	1,750	247	+16.4%	100	+6.1%
LSソリューション	1,176	1,100	1,100	-76	-6.5%	-	-
マテリアルズ	6,308	6,800	7,050	742	+11.8%	250	+3.7%
電子材料	1,467	1,700	1,900	433	+29.5%	200	+11.8%
ディスプレイ材料	947	850	700	-247	-26.1%	-150	-17.6%
他高機能材料	964	970	1,000	36	+3.7%	30	+3.1%
グラフィックコミュニケーション	2,930	3,280	3,450	520	+17.7%	170	+5.2%
ビジネスイノベーション	7,599	8,000	8,150	551	+7.3%	150	+1.9%
オフィスソリューション	4,995	5,200	5,300	305	+6.1%	100	+1.9%
ビジネスソリューション	2,604	2,800	2,850	246	+9.4%	50	+1.8%
イメージング	3,334	3,600	3,900	566	+17.0%	300	+8.3%
コンシューマーイメージング	2,190	2,400	2,600	410	+18.7%	200	+8.3%
プロフェッショナルイメージング	1,144	1,200	1,300	156	+13.6%	100	+8.3%
合計	25,258	27,000	28,000	2,742	+10.9%	1,000	+3.7%
為替							
米ドル	113円	126円	135円	22円安		9円安	
ユーロ	131円	134円	136円	5円安		2円安	

※印刷会社などのプロ市場向け複合機事業の売上高・営業利益の金額を「ビジネスイノベーション」セグメントから「マテリアルズ」セグメントに組み替え、複合機に関わる一部ソリューション事業の売上高・営業利益の金額を「オフィスソリューション」から「ビジネスソリューション」に組み替えています。本区分変更にあわせ、2022年3月期の情報をリスタートしています。

© FUJIFILM Holdings Corporation 29

営業利益増減分析(通期業績予想 対前回予想)

(単位：億円)

	2023年3月期(通期)		対前回予想		為替	原材料価格	一時費用	オペレーション等 ^{※1}
	前回予想 (2022/8/10)	今回予想 (2022/11/10)						
ヘルスケア	1,120	1,150	30	+2.7%	75	2	-5	-42
マテリアルズ	720	720	-	-	65	4	5	-74
ビジネスイノベーション	670	630	-40	-6.0%	-30	-	-10	-
イメージング	420	520	100	+23.8%	50	1	10	39
全社/連結調整	-430	-420	10	-	-	-	-	10
合計	2,500	2,600	100	+4.0%	※2 160	※3 7	※4 -	-67

※1 半導体需給逼迫に伴う部材価格及び物流コストの高騰影響も含む

※2：為替レート

	前回予想 (2022/8/10)	今回予想 (2022/11/10)
米ドル	126円	135円
ユーロ	134円	136円

※3：原材料別(半導体影響は除く)

	今回予想
銀	5
アルミ	2
他(燃料等)	-
合計	7

※4：一時費用明細

	前回予想 (2022/8/10)		今回予想 (2022/11/10)		差異
ヘルスケア	65	70	-5		-5
新規買収会社(CDMO)	45	52	-7		-7
その他	20	18	2		2
マテリアルズ	25	20	5		5
グラフィック等	25	20	5		5
ビジネスイノベーション	115	125	-10		-10
体質強化費用	80	90	-10		-10
新ブランド移行費用	35	35	-		-
イメージング	25	15	10		10
体質強化費用等	25	15	10		10
全社	5	5	-		-
合計	235	235	-		-

参考資料

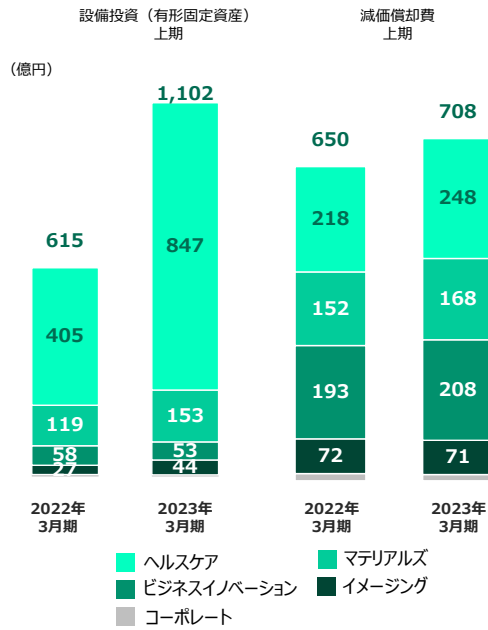
国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

	2022年3月期 上期		2023年3月期 上期		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	39.1%	4,713	35.5%	4,785	72	+1.5%
米州	20.8%	2,506	22.6%	3,054	548	+21.9%
欧州	12.7%	1,536	14.8%	1,996	460	+30.0%
内、中国	13.8%	1,663	13.6%	1,833	170	+10.2%
アジア他	27.4%	3,296	27.1%	3,664	368	+11.1%
海外	60.9%	7,338	64.5%	8,714	1,376	+18.7%
合計	100.0%	12,051	100.0%	13,499	1,448	+12.0%

© FUJIFILM Holdings Corporation 31

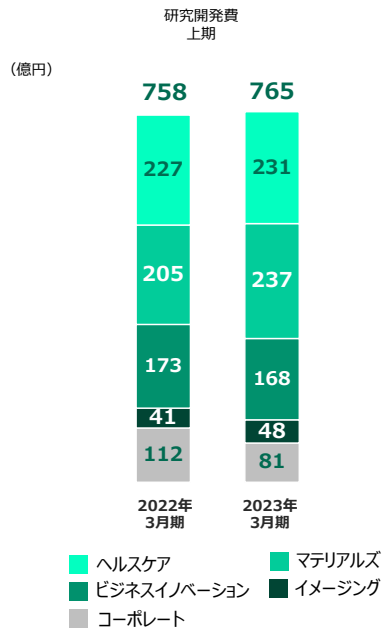
設備投資 | 減価償却費



(単位: 億円)

年度	2Q		上期		通期	
	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期 (予想)
ヘルスケア	227	446	405	847	1,039	2,600
マテリアルズ	66	93	119	153	317	650
ビジネスイノベーション	33	29	58	53	121	110
イメージング	16	33	27	44	55	110
コーポレート	4	3	6	5	20	30
設備投資 (有形固定資産)	346	604	615	1,102	1,552	3,500
ヘルスケア	27	36	55	60	113	150
マテリアルズ	18	23	28	39	68	50
ビジネスイノベーション	73	182	125	306	314	400
イメージング	17	13	29	25	54	50
コーポレート	10	8	17	16	39	50
設備投資 (ソフト、レンタル資産他)	145	262	254	446	588	700
ヘルスケア	118	126	218	248	445	540
マテリアルズ	75	83	152	168	324	350
ビジネスイノベーション	100	105	193	208	390	440
イメージング	36	36	72	71	141	150
コーポレート	8	7	15	13	30	20
減価償却費	337	357	650	708	1,330	1,500

研究開発費 | 販売費及び一般管理費



(単位：億円)

年度	上期		通期	
	2022年 3月期	2023年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期 (予想)
ヘルスケア	227	231	453	
マテリアルズ	205	237	399	
ビジネスイノベーション	173	168	332	
イメージング	41	48	85	
コーポレート	112	81	236	
研究開発費	758	765	1,505	1,620
<売上高比>	6.3%	5.7%	6.0%	5.8%
販売費及び一般管理費	3,227	3,434	6,530	
<売上高比>	26.7%	25.5%	25.8%	

為替 | 原材料価格 | 人員

為替

(単位：円)

	2022年3月期				2023年3月期				
	1Q	2Q	上期	通期	1Q	2Q	上期	下期(予想)	通期(予想)
米ドル	109	111	110	113	130	139	135	135	135
ユーロ	132	130	131	131	138	139	139	133	136

為替感応度 1円の変動による影響 (年間)

	売上高	営業利益
米ドル (1円あたり)	50億円	3億円
ユーロ (1円あたり)	15億円	8億円

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2022年3月期				2023年3月期				
	1Q	2Q	上期	通期	1Q	2Q	上期	下期(予想)	通期(予想)
銀	93	86	91	89	95	86	91	98	94

人員

(単位：人)

	2021.9末	2021.12末	2022.3末	2022.6末	2022.9末
連結	75,007	74,842	75,474	75,341	75,090

参考資料

パイプライン (2022年11月10日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬	経口	日本	Ph III
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II
			日本	Ph II
	欧州		Ph II	
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬		日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
			米国	Ph II
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンリボソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トボテカンリボソーム)	注射	米国	Ph I

※ T705：新型コロナウイルスの効能追加の開発を中止。

参考情報

- **富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>
- **富士フイルムホールディングス 統合報告書2022**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>
- **IR資料室**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>
- **富士フイルム事業概要**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/business-overview.html>
- **グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」**
<https://www.fujifilm.com/jp/ja/about/brand/story/neverstop>
- **新型コロナウイルス感染症への取り組み**
<https://brand.fujifilm.com/covid19/jp/>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拓けるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部

<https://holdings.fujifilm.com/ja>